がん研ボランティア
活動報告書（2020）

（大雨の後にかかる虹：ボランティア室より）

がん研有明病院
CANCER INSTITUTE HOSPITAL

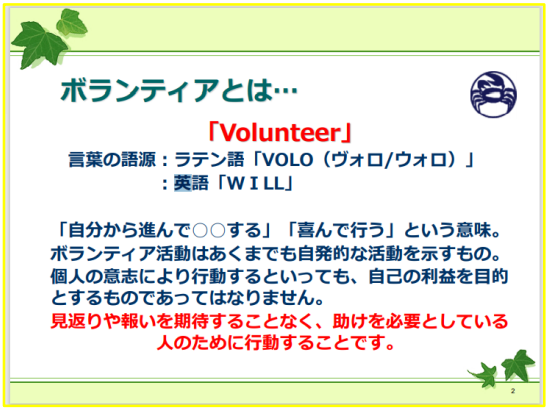
2020 年度　ボランティア活動　年間のご報告

がん研が豊島区大塚にあった 1980 年からスタートしたボランティア活動は、2020 年に活動開始 40 周年、有明移転からも 15 周年となり、大きな節目を迎える一年でした。

ですが、アニバーサリーイヤーとなるはずの 2020 年、COVID-19 の感染拡大の影響を受け、思いもよらない状況となりました。2 月 27 日より半月程度の予定で活動を休止し、感染状況が収まるのを待っておりましたが、その後も休止期間を繰り返し延長し、4 月に初めての緊急事態宣言が発出されて以降、病院への来院制限、入院患者さんへの面会禁止という状況となり、病院にお越しいただいての直接的なボランティア活動を実施することができませんでした。これはがん研に限らず、他の病院ボランティア活動でも同じことで、日本病院ボランティア協会の調査によると、どの病院でも活動休止状態となっています。

4 月にはがん研でも職員のコロナ感染が判明し、ボランティアの皆さまをはじめ、協力企業、関係者の皆さまに大変ご心配をおかけしましたが、がん研では院内感染が発生することもなく、“がん診療の最後の砦”として、コロナ対応の影響で治療が困難になった他院の患者さんを受け入れています。また、昨年のクリスマスからがん研でもコロナ専用病棟が稼働し始め、がん患者さんとコロナ患者さんの両方の治療にあたっています。職員には厳しい行動制限が設けられて緊張感が続く毎日ですが、医療従事者への支援として物品の寄贈や応援メッセージなど多くの方から沢山の温かいご支援もいただき、病院職員も非常に励みとなりました。ボランティアの皆さまからのお心遣いも、本当に感謝しております。

このような事態が起こるとは予想もつきませんでしたが、これまで継続してきた活動を絶やさないように、そして、ボランティアの皆さまに再び活動にお越しいただくときに、できるだけ以前と変わらないように…と私も努めて参りましたが、院内の様子も病院内のルール、感染対策の方法もこれまでとは大きく違ってきています。この中でボランティアとしてできることは何か、何が求められているのか、毎年、ボランティア説明会でお話ししている“ボランティアとは何か”についても、改めて考えることができました。活動休止となっても、自発的に活動にご協力くださった皆さまに支えられて、通常の活動が実施できずとも季節行事や新しい活動などこれまで以上の活動も行うこともできました。また、職員への協力を呼びかけたことで院内でのボランティアの輪も拡がり、活動に対する理解も深まってきました。病院ボランティアはどのような状況であっても、“患者さんやご家族に寄り添う気持ち”を大切にして行われる活動であることには変わりはありません。ボランティアとして“自ら考えて行動する力”を身につけて、活動再開時にはより質の高い活動を行うことができるように、皆さまにもいまこの時を大事に過ごしていただけるようにと願っております。



2021 年 6 月

がん研有明病院 ボランティア支援室
ボランティアコーディネーター/社会福祉士
柴田かおり

コロナ禍で実施できたボランティア活動

2020 年度のボランティア登録者は 30 名（演奏ボランティア 2 名、ボランティアわかば 28 名）でした。活動休止期間のため、更新手続きも郵送での対応となり、活動の振り返りや次年度の活動への抱負など直接皆さんのご意向をお伺いすることができない状態でしたが、多くの方に継続していただけたことは大変有難いことでした。コロナ禍で何かボランティア支援室としてできることはないか…、患者さんやご家族のためだけではなく、医療従事者である病院職員への応援にも繋がるようなことができないか…、ボランティアの皆さまにも一緒に考えていただき、様々なご意見をいただきました。

コンサートの出演者や演奏ボランティアの方からは、ご自身が演奏した曲を録音した CD を患者さんに聴いていただけるようにできないか、YouTube などの動画を利用して演奏を楽しんでいただけないか、などとても素敵なご提案をいただきましたが、人が集まることで感染リスクが高まること、また、様々な感染防止対策が実施されるようになり、職員の人員確保をすることができず、どのコンサート活動も実施することが叶いませんでした。

また、登録メンバーの方に定期的にお送りしているメールでは院内の様子や様々な情報をお知らせしておりましたが、ボランティアわかばの方も送信する度に温かいメッセージを返信してくださったり、「何かお手伝いできることはありませんか？」「そろそろ、○○○カードを作る時期ですよね？自宅で作りますよ！」とご連絡いただいたり、先が見えない不安がある中でも、いま自分にできることを考えて自発的に協力をお申し出くださる方がいてくださったことは、コーディネーターの私にとって非常に大きな支えとなりました。本当にありがとうございました。

ボランティア活動の更新理由

更新手続きにあたって、皆さまからお知らせいただいた更新理由の中で、印象に残る理由をご紹介させていただきます。皆さまの想いがとても嬉しく、有難く思っています。

- ずっと勉強してきたことが、社会の中で役に立てていることがとても嬉しく有難いです。これからも精進して、より患者さんやご家族に寄り添った活動ができるようになりたいと思っています。
- 多くの刺激をいただき、沢山の出会いをもらい、大切な居場所の一つとなっているから。
- ボランティア活動を通して、日常生活では得られない知識や経験などを今までの活動で沢山の経験できたことに感謝しています。
- ボランティアの皆さん、患者さんとの時間が大切なものになっているので。
- 直接患者さんと触れ合う機会があり、少しでもお役に立てれば…という気持ちが強くなりました。これからもあらゆる活動を通して、自分ができることを精いっぱいやっていきたいと思います。
- とても楽しく、やりがいを感じて活動させていただいており、続けていきたいので。
- 退職後の時間の有効活用、地域貢献、自己啓発

在宅ボランティア

新たな活動方法として６月より『在宅ボランティア』の活動をスタートさせました。
生活が大きく変化しましたので “できる方ができることをできる範囲で”という気持ちで、お申し出いただいた方に個別に依頼して、メールや電話で相談しながら、材料のやり取りはすべて郵送で対応しました。演奏ボランティア、ボランティアわかばの皆さまはじめ、ご協力いただいたボランティアメンバーの人数と職員の協力部署をご紹介します。

No	活動内容	V参加人数	職員の協力
1	七夕（笹飾りづくり）	６名	リハビリテーション室
2	尿瓶キャップづくり	４名	ワークサポートチーム
3	カード材料準備（パーツ型抜き）	２名	リハビリテーション室
4	行事食カードづくり＆アイディア提供＆試作	２名	リハビリテーション室
5	クリスマスカードづくり	６名	リハビリテーション室 臨床開発研究センター
6	チャリティーSHOP 品物づくり	４名	リハビリテーション室
7	希望のクリスマスツリーププロジェクト	21 名	全職員

図書

貸出図書の消毒、整理整頓はコーディネーターが代行して、活動を継続しました。初めて緊急事態宣言が発出されたのを機に外来図書ワゴンは撤去して、ボランティア室で保管しています。病棟図書の貸出は面会ができない患者さんにとって、この図書が少しでも入院中の気分転換なっていただければ…と思い、４月から半年間コーディネーターが一人で続けていましたが、10 月からは兼務職員に週１回参加してもらい、貸出を継続しました。しかし、クリスマスからがん研でもコロナ専用病棟が稼働することになり、職員もコロナ対応でスクリーニング外来、検温チェック等の当番が各部署に割り振られたため、兼務職員の参加も難しい体制となりました。そのため、緩和ケア病棟を除く、11 階から５階デイルームのすべての図書を撤去、貸出を中止させていただきました。現在ボランティア室の中は図書ワゴンと 8,000 冊もの本が溢れており、少々手狭になっています。寄贈本の受付、消毒作業やカバーかけ、古本整理は兼務職員にも協力してもらい、活動が再開の際は新しい本を貸出できるように準備を進めています。

折り紙作品の展示（12 階緩和ケア病棟）

入院患者さんの面会は禁止中ですが、12 階の緩和ケア病棟では患者さんの病状を考慮して、他の病棟とは違う対応を取ることが特別に許可されることもあります。病棟デイルームではほんの短い時間だけでもご家族と過ごすことが可能な場合もあるため、ピアノの譜面台を利用して折り紙作品の展示は継続して行いました。季節ごとにこれまでの『折り紙を楽しむ会』のメンバーの皆さんが作ってこられた作品を展示したり、新作として、大人気マンガの“鬼滅の刃”のキャラクターやがん研 12 階の北側からも遠くに見える東京タワーの夜景を折り紙とシールで作ってくださり、送付していただきましたので、こちらを展示しました。病棟看護師からも季節ごとに変わる折り紙作品に「癒されます！」と喜んでもらうことができました。

お誕生日カードづくり　※栄養管理部と協力しての活動

毎月 40 枚作成しているお誕生日カード、音楽好きなボランティアさんのアイディアで、音譜♫を読んでいただくと、「Happy Birthday To You～♪」のメロディーになるように、小さな音譜を一つずつ型抜きして貼り付けています。活動が再開するまでの間は、コーディネーターが代行して作成するつもりでおりましたが、他の活動もコーディネーターが一手に引き受けており、在宅ボランティアで依頼するにも準備に時間がかかり、どう対応していくか考えていたところ、リハビリテーション室の主任理学療法士、馬城はるか先生が協力を申し出てくださり、休憩時間を使ってクラフトパンチで細かいパーツの型抜き作業を担当してくれました。その後、ボランティア支援室で兼務職員も加わってカードを仕上げ、毎月滞りなく栄養管理部へ届けて、栄養管理部の職員がお食事のトレイにカードをのせて病棟スタッフが朝食と一緒に、患者さんの元へこのカードをお届けしました。面会制限もあり、入院中にお誕生日を迎える患者さんのお気持ちを思うと、このカードで少しでも明るくなっていただければと願っています。

リハビリテーション室 ⇒ ボランティア支援室 ⇒ 栄養管理部 ⇒ 各病棟スタッフから患者さんの元へ

行事食カードづくり　※栄養管理部と協力しての活動

前年度まで七夕・クリスマス・お正月と 3 回の行事食カードが大変好評だったことから、栄養管理部と相談して、こどもの日・節分・ひなまつりの行事食にもカードを添えることになりました。提供回数を増やそうと決定した矢先に、活動が休止となりましたが、在宅ボランティアでカードづくりにご協力くださる方、カードのデザインを考えてくださる方のおかげで、例年にも劣らない素敵なカードが完成しました。特に、クリスマスの行事食カードは折り紙を使ってポインセチアを切り紙するカードで、赤と緑の合計 1,000 枚もの数をお一人のボランティアの方が作ってくださいました。活動休止中でも年間で 6 回、合計 2,230 枚もの行事食カードを入院患者さんにお届けすることができました。患者さんからも食札にお礼のメッセージをいただき、大好評でした。

【こどもの日：500 枚】

【七夕：500 枚】

【クリスマス：500 枚】

【お正月：200 枚】

【節分：80 枚】

【ひなまつり：450 枚】

ソーイング

尿瓶キャップは在宅ボランティアで作っていただき、年間 830 個を病棟へ払い出ししました。尿パックカバーは 23 枚、活動休止前にボランティアの方に作っていただいた在庫がなくなってからは、コーディネーターが縫製作業も担当し、ポシェット 5 個、特注 5 点を作成した他、クッションのほつれ修理など看護部と協力しながら対応しました。

イベント

【端午の節句：4/20～5/7】

緊急事態宣言が出ている最中、がん研で初めて職員のコロナ感染が判明して 110 名を超える職員が自宅待機となってしまい、手術数 8 割減とニュースで大きく取り上げられたため、病院全体が重苦しい雰囲気となっていました。ですが、このような時だからこそ、季節の行事は大事にしたい！とCOVID 対策本部の許可も得て、例年通り二つの五月人形を飾付しました。コーディネーターが一人で飾付をしていると、患者さんが手助けしてくださったり、院内を回診中だった病院長や看護部長をはじめ、多くの職員が声をかけてくれました。誰もが不安で緊張感が漂う中でしたが、オルゴール機能付きの五月人形から流れてくる「♫屋根より高い鯉のぼり～」の曲にホスピタルストリートを通る方の足取りが少し軽くなったのではないかと思います。

【七夕：7/1～7/8】

沢山の願いごとが短冊に書かれる毎年好評の七夕イベントは、コロナ感染拡大防止のため、当初開催を危惧する意見もありまが、“密”を避け、短冊を記入するコーナーでは記入前後に手指消毒、使用するサインペンも毎回消毒していただくよう案内し、短冊をご覧いただく際もしっかりとソーシャルディスタンスを保っていただくなど、感染防止対策案を数パターン準備して、COVID 対策本部で検討の結果、開催できることとなり、帝都典礼さまのご協力で笹を設置しました。コーナーの消毒や短冊の補充も小まめに行い、入院患者さんと外来患者さんの接触を避けるように外来診療が終了する夕方以降に入院患者さんには短冊を笹に結びつけていただくようお願いしたり、病棟スタッフの負担もありましたが、一人一人が注意して協力して、無事に安全に開催することができました。患者さんの来院数が減少していたため、笹に結ばれた短冊は 876 枚と例年の半数でしたが、コロナの収束を願って用意したアマビエの短冊も好評でした。2 階吹き抜けから七夕コーナーをご覧いただくと、大きな星☆形に見えて、この状況が早く落ち着いて欲しいという思いが伝わる、というお声もいただきました。また、在宅ボランティアで笹飾りの作成をお願いしましたが、飾りの案や材料準備、送料まですべてを引き受けてくださる方が 6 名もいてくださり、素敵な七夕の飾付をすることができました。短冊と笹飾りは例年同様、富岡八幡宮にお焚き上げをお願いしてきました。

【クリスマスカードづくり：8 月下旬～12 月中旬】

手作りクリスマスカードは、折り紙でジャバラ折りをしたロゼットを中心にしたカードで、ボランティア室にある材料をできるだけ工夫して使いながらも見栄えのあるカードに仕上げました。活動休止となってからも「何かできることがあれば！」とご連絡をいただいた方に個別にご協力をお願いして、準備を進めていきました。在宅で作業していただくため、作り方を YouTube で確認していただいたり、工程ごとに写真を撮って細かく説明書を作成したり、電話やメールでやり取りしたりと例年のように直接説明ができない分、対応が難しい面もありました。ですが、暑い時期からの準備にも関わらず、快く引き受けて楽しんで組んでくださったことが有難く、一緒に活動できなくても同じことを共有している！という喜びも感じることができました。また、職員や職員のご家族からの協力も得て、合計 750 枚分のカードを期日まで予定通りに完成させることができました。見開き上部には佐野病院長から、下部は病棟スタッフからメッセージを入れて、コロナ専用病棟がオープンした 12/24 クリスマスイヴに入院患者さんにお届けしました。

【希望のクリスマスツリープロジェクト：12/1～12/26】

今回初めての試みとなったクリスマスのイベントです。折り紙でサンタクロースを折って、クリスマスツリーのオーナメントとして飾付するこのプロジェクトは職員と在宅ボランティアの皆さまとの初めての大きな協同作業となりました。沢山の方を笑顔にできたイベントでした。

コンセプト

一年の中でも街中が最も華やぐ季節となるクリスマス…今年は新型コロナウイルスの影響を受けて、がん治療を受けられる患者さんも一緒に病気に立ち向かっているご家族も、そして病院職員にとっても心身共に大きな負担がかかる一年となっています。来年こそは明るい年となりますように！と願いを込めて、がん研職員ひとり一人が折り紙でサンタクロースを折り、クリスマスツリーのオーナメントとして飾付をする『希望のクリスマスツリー』2020 年の最後のひと月、どうか皆さまの心が希望に満ち溢れますように…

実はこのプロジェクト、いつかがん研で開催できないか！と数年前より考えていた企画でした。コロナとの闘いが長期戦となって、患者さんご家族はもちろん、職員もボランティアの皆さまも、誰もが先が見えない不安を感じながらの生活をされていたと思います。病院では、職員には普段の生活にも行動制限がかかっている状況で、ボランティア活動の再開めやすも「病院への来院制限が解除され、入院患者さんへの面会が可能となってから」との判断となり、気持ちが沈みがちな中でしたが、毎年恒例のサンタクロース病室訪問イベントに代わるクリスマス行事ができないものかと、夏頃から準備を始めました。

折り紙の活動を担当する、ボランティアわかばの髙橋朱美さんに折り紙で飾付するツリーについて調べていただき、誰でも参加できるよう簡単に折ることができるサンタさんの折り方を色々検索すると、「かんたんサンタ」という名前の折り紙サンタに巡り合い、考案者でもある折り紙作家のカミキィさんにも活動の趣旨にご賛同いただきました。

そんな中、大雨の後にたまたまボランティア室の窓から見ることができた“虹”からヒントを得て、希望の光となるように 7 色の折り紙を使ってホスピタルストリートに彩りあるクリスマスツリーを飾付しようと『作って応援、飾って応援、みんなで折ろう！折り紙サンタで飾る希望のクリスマスツリー』としてこの企画を提案しました。このような時にボランティアどころではない…という雰囲気もあり、厳しいお声もいただきました。人が集まる可能性が予想されるイベント、ましてや恒例ではない新たなイベントを開催することは賛同を得にくいのは重々承知していましたが、室長の奥村先生や関係各部とも相談を重ね、患者サービス委員会、COVID 対策本部、病院幹部の会議でも検討していただき、参加対象は職員とボランティア限定、患者さんやご家族にはご覧いただくのみ、として開催許可を得ることができました。本来でしたら、ボランティアの皆さまと相談しながら進めていきたいところでしたが、ボランティア支援室の職員が総出で準備にあたり、理事長や病院長、副院長、看護部長の幹部職員には特大サイズのサンタを折っていただいて、職員への参加を呼びかけるなど、ボランティア活動としては一大プロジェクトとなりました。いざスタートしてみると当初用意していた 500 枚の折り紙はあっという間に在庫がなくなり、材料を追加するほど。サンタの数に応じて考えていたツリーの飾付方法も、

７色のサンタをランダムに、色別に縦と横のグラデーションに、３パターン準備していましたが、2m 超えの大きなモミの木３本いっぱいに飾付ができるほど 1,357 枚もの折り紙サンタさんが集まりました。

このツリーの前で立ち止まってご覧いただいたり、写真を撮ってくださったり、ご自身のブログで紹介してくださったり、皆さまの反応に嬉しくなりました。折り紙サンタのお顔は、参加者の皆さまに自由に書いていただけるようにしましたが、一つ一つ表情が豊かなサンタさんで、見ていると思わずにっこりとなります。
また、自分が作ったサンタを手にして撮影した写真を並べてサンタ作成者の紹介パネルを用意しましたが、「ツリーとこのパネルと見たら元気がもらえました！」というお声をいただくほど、参加された方、ご覧いただく方にとっても、元気が出る笑顔あふれるイベントになったのではないかと思います。自分が楽しみながら参加したことが誰かの笑顔に繋がり、喜んでもらい元気になってもらえると心も温まります。このプロジェクトが皆さまの心に響くものとなっていただけたら、そしてボランティアの心を感じていただけたら嬉しく思います。そして、次回はぜひ患者さんにもこのオーナメントづくりに参加していただき、ボランティアの皆さまと一緒に飾付することができるようにと心から願っています。

【生のモミの木クリスマスツリー飾付：12/1～26】

平安祭典さまによる生のモミの木のクリスマスツリーを今年も飾付していただきました。例年院内での飾付ですが、コロナ対策で外来待合席の数が間引きされたため、飾付をしていたホスピタルストリートの置時計横のスペースが待合席となってしまい、正面玄関での飾付となりました。
大きなモミの木が寒い中、来院される患者さんを温かく迎えてくれました。

【桃の節句：2/15～3/5】

モミの木と同様、ひな人形の飾付場所がなくなってしまい、飾付を実施するかどうかも検討いていたところ、院内レストラン東京會舘さまが快く場所を提供してくださり、お店の前にひな人形七段飾りを飾付できました。お店に入る順番待ちをされる患者さんのお邪魔になるのではないか…と心配でしたが、東京會舘スタッフの皆さんも利用される患者さんやご家族と和やかにひな祭りのお話をすることができたと言ってくださり、支配人や料理長のお心遣いもとても嬉しかったです。

ボランティア活動に寄せられたご意見

患者さんからのメッセージ

例年とは異なり、通常の活動は実施できませんでしたが、限られた活動に対しても感謝のメッセージをいただくことができましたので、ご紹介いたします。がんの治療に加えて、新型コロナウイルスの感染拡大の影響もあり、更なる不安がある中で、ボランティア活動が患者さんの目に入ったことだけでも嬉しいことですが、患者さんの心にも届いたことがこのメッセージから伝わります。

普段はマンガを読む習慣はないのですが、
中学生の頃に読んだ本があり、夢中で
読みました。マンガ三昧生活のおかげで、
うじうじ悩む時間が減りました。
一冊一冊消毒してくださっている方にも
感謝です。
ありがとうございました。

（2020 年 9 月／入院患者さんより）

ロビーに折り紙で作ったサンタクロースが
飾られていました。もうすぐクリスマスだな
と感じることができ、ほっとする瞬間になり
ました。ロビーの一角に季節を感じられる
展示があるとはすごくいいなと思いました。
重い足取りや気持ちが少しやわらぎます。
ありがとうございます。

（2020 年 12 月／外来患者さんより）

病院長メッセージとともに、担当看護師さん手書きのクリスマスカードや食事の骨つき
ローストチキン等精一杯のクリスマス演出をして頂き有難うございました。
ご担当の方に直接お礼を申し上げたかったのですが、申し上げる機会もないまま退院すること
になり心残りです。お陰様でとても安らぎ、家族・友人等多くにライン（写真）送信し、
みんなでほっこりすることができました。それぞれの分担とはいえ、全患者とても大変だった
とは思いますが、患者（受け取った者）の一人として心からお礼申し上げます。佳き余韻に
残る嬉しいプレゼントでした。余談ながら、家族からの返信で「有明最高♡」とありました。

（2020 年 12 月／入院患者さんより）

2019 年 7 月から 9 月まで入院しておりました。その際、スタッフの皆様に大変お世話になり
ました。退院時の「ご意見」で書き落としましたことを申し上げます。
ボランティアの方々がされている図書の事です。
私が利用しましたのは 1 階、2 階、7 階でしたが、とても興味深く読ませていただきました。
今はコロナ下で中止されているようですが、早く再開されるといいですね。

（2021 年 2 月／外来患者さんより）

栄養管理部　ボランティアわかばの皆々様
バースデーカードを有難うございました。6 回目の丑年の誕生日をはからずも
病院で迎え、寂しい気持ちでしたが、ホッコリとしたお気遣いで
楽しい気分になりました。心から感謝します。

（2021 年 3 月／入院患者さんより）

乳腺科患者会グループの皆さんからのメッセージ

以前、ボランティア室を共同で使用していた「GBCSS（乳がんの患者会あけぼの会）」患者会グループの皆さんからも応援メッセージをいただきました。

GBCSS の活動を支えてくださったみなさまへ

GBCSS は、当面の間活動を休止しております。今は患者さんの為に何も出来ない私たちですが、患者さんを支えるみなさまへ感謝とエールをお伝えしたいと、このカードをつくりました。お時間がある時にみていただけたら幸いです。みなさまのご無事を心からお祈りしております。

（GBCSS がん研有明病院訪問ボランティア 一同）

職員からのメッセージ

活動休止中、在宅ボランティアの皆さんへの依頼だけでは活動を継続することができず、職員にも例年以上に活動への協力を呼びかけました。毎年依頼している「ちょこっとボランティア」だけでなく、カードづくりやクリスマスイベントの参加など、思っていたよりも職員の協力が得られ、活動に対して様々な意見が届きましたのでご紹介いたします。

（季節行事について）

♧ こんな時だからこそ、ボランティアさんの活動が大事になりますね。

♧ 可愛らしいクリスマスツリーの準備、ありがとうございます。完成を楽しみにしています！

♧ いろいろな制約の中、心温まる飾りつけをありがとうございます。

（活動全般について）

♧ ボランティアさんがしてくださっていたことは、当たり前ではないんですね。もっと活動のことを職員はちゃんと理解してくてはですね。

♧ 大変な状況の中でのボランティアの活動に加えてご寄付までいただき、誠に有難うございます。心より感謝申し上げます。

（職員向け Web セミナーでのコーディネーターによるボランティア活動の講演ついて）

♧ ボランティアさんの活動内容を聞くことができてとても貴重な講演でした！講演内容もとてもわかりやすくて聴いていて楽しかったです！コロナ落ち着いたらボランティアの方に早くお会いしたいなと思いました！ありがとうございました！！

♧ WEB セミナー拝聴いたしました。大変わかりやすい資料で、ボランティア活動を深く知ることができました。ありがとうございます。落ち着いた口調でとても心地よく、とっても聞きやすかったです。勉強になりました。

♧ とてもわかりやすかったです。お話の仕方がお上手で！改めてボランティア支援室が職員一人というのは大変だと思いました。ちょこボラ、うちにある提供できそうなものをお持ちします。

ボランティアの皆さんからのメッセージ

在宅ボランティアとしてお力を貸してくださったボランティアの皆さまからも、様々なご意見をいただきましたので、ご紹介いたします。患者さんやご家族に笑顔になっていただけるような活動をすることが一番ですが、コーディネーターとしてはボランティアの皆さまにもがん研のボランティア活動を通じて、心豊かな生活を過ごしていただければ、と願っています。私もボランティアに関わるようになって 30 年以上経ち、このような状況は初めてのことですが、皆さまからのメッセージに大きな力をいただきました。

❀コンサートや七夕、クリスマスなどの行事にこれまで楽しく参加出来ていたことに感謝です。当たり前のことなんてないことに、改めて気付かされました。でも、また今を乗り越えて、何か新しく見えてくる良い事もありますよね。それがボランティア活動にもいい影響を与えられるよう、毎日冷静に過ごして行きたいと思います。

❀患者さんのみならず病院スタッフへも、この時期、重要な癒しを届けていらして、ボランティア室の存在意味、普及活動にもなっているのですね。

❀活動報告書には毎年感激しています。今回はアンケートの結果もまとめていただいて、この時期に読めたことに感謝します。私は具体的な協力は全然できていないですが、おかげでメンバーの一員でいられることに誇りを感じることができました。

❀コロナの収束後は今回の混乱を踏まえ、これまでとは違った世界がやってくるでしょう。ボランティアについても変化が求められた時は、少しでもお力になれる様、努力していきたいと思っています。一斉メールなどでボランティア支援室の近況をお伺いできれば幸いです。文面を通じて勇気や元気をもらって、長丁場になりそうなこの困難な状況を一緒に乗り越えていきたいです。

❀逼迫した医療体制状況が報道されるたび、がん研の皆様の大変な日々を思わずにはいられません。活動が制限され、お役に立てることも限られますが窓から見えるボランティア室にエールを送っています。

❀お誕生日カードを頂いてちょっと気持ちが明るくなりました。闘病中の方なら、うれしさはひとしおかもしれませんね。カードの効用に今更ながら気がつきました。貴重なカードを送って下さってありがとうございました。

❀この度は、お誕生日カード！ありがとうございました。心がほんわか。入院中にこちらのナースに、誕生祝いに１品あるいは誕生カードとか付くか聞いたら、「ここはそういうの何にも無いんですよ」と、思わずがん研の話をしました。がん研のやっていることは当たり前でなく、凄い事なんですね。

❀クリスマスプロジェクトのご案内、ありがとうございました。患者さんたちに喜んでいただく企画ではありますが活動が出来ず悶々としているボランティアのための企画でもあると思っており大変ありがたいです。

❀折り紙でサンタさんの飾りをするアイディアがとても良くて、折り紙を折りながらサンタさんの可愛らしさについ微笑んでしまいました。ツリーの完成が楽しみですね！きっと患者さんたちも喜んでくださると思います。

❀皆さんが一つになって作り上げたプロジェクト、大成功ですね。とてもあたたかいものを感じました。いい病院だなあと思いました。来年のクリスマスは、またツリーの飾りつけや病室訪問ができますように。

❀クリスマスカードの作業に当たり、各準備が大変だったことでしょう。前準備がきちんと出来ていて、「さすがだなぁ」と思いました！こうして活動に参加できるとわかり、良かったです。

❀クリスマスプレゼントをありがとうございます！ぜーんぶステキ！！皆様方のお言葉もとても嬉しかったです。いいチームだなぁと感じました。ご協力できることがありましたら、喜んでします！！こちらからも何か気づいたことがあったらメールしますね。すごく暖かいクリスマスツリーでしたよね。ボランティア史上に残りますよ。

❀嬉しいクリスマスプレゼントに、懐かしさでいっぱいになりました。思いがけないコロナウイルスの襲撃？にもかかわらず、ボランティアへの熱い思いが伝わって来ました。患者さんへの、先生方をはじめ看護師さんや、すべての医療スタッフの方々の細やかな対応も、がん研の対応には感服しました！

❀病院職員の方たちの間でも様々なプロジェクトや活動が始まっているお話も嬉しいです。ボランティア活動が再開した暁には、今まで以上に職員の方たちと協力し合いながら新しいことが出来るかもしれないと明るい気持ちになりました。

❀生まれて初めての入院がこんな事になろうとは、戸惑いを隠せません。毎日ベッドの上に横になっていると気が滅入るので、歩ける日はなるべくデイルームに出かけます。ところが、がん研と違い本も雑誌も何も無いのです！いかにがん研が素晴らしい環境なのかを思い出します。とにかくがん研の良いところばかり目につきます。

❀オリンピックもどうなることやらですね。ボランティアの辞退も出てきているそうですが、足りないくらいなら、私やりたいです。ただ、ボランティアの人達をキチンと指導できるリーダー、つまりコーディネーターの存在がどれだけいるかが重要だと思うんです。その人によって面白さとか充実度が違ってくると思います。私はがん研のボランティアに出会えて、本当に幸運だったと思っています。

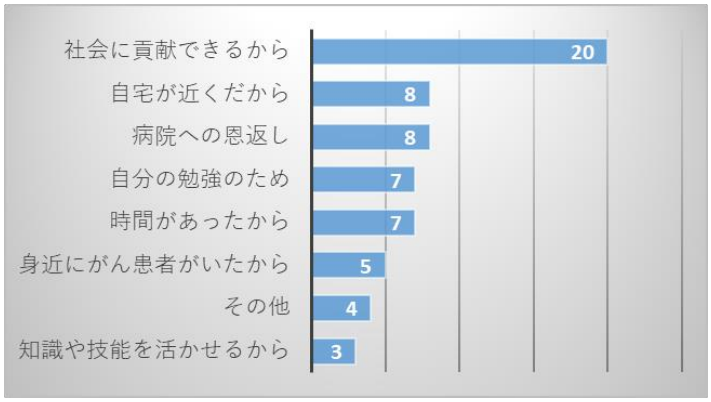
ボランティア活動アンケート結果

活動開始 15 周年を迎えたのを機に、ボランティア登録メンバーの皆さん 30 名に活動を振り返っていただくと共に、今後の活動をより充実したものにできるようアンケートの協力を依頼しました。アンケートを依頼したのは 2015 年に活動 10 周年を迎えて以来、5 年ぶりのことですが、ここでアンケート結果の一部をご報告いたします。

がん研のボランティア活動に参加して、どれくらいの期間が経ちましたか？

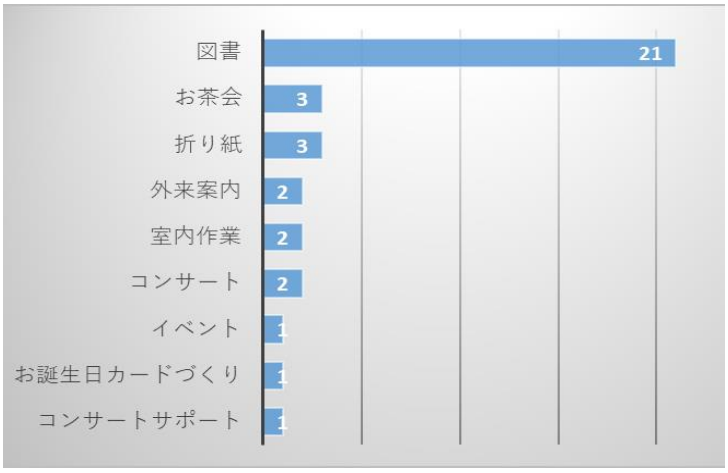
体制	活動開始年（年数）	人数	備考
VC 不在	2000 年（20 年）	1 名	大塚時代からのメンバー（1 名）
初代 VC	2005 年（15 年）	1 名	有明移転
2 代目 VC	2006 年（14 年）	0 名	
↓	2007 年（13 年）	2 名	《旧体制》
	2008 年（12 年）	1 名	随時募集・研修なしの参加メンバー
	2009 年（11 年）	3 名	（7 名）
3 代目 VC	2010 年（10 年）	0 名	※ボランティア募集見合わせ
↓	2011 年（9 年）	3 名	
	2012 年（8 年）	4 名	
	2013 年（7 年）	4 名	《新体制》
	2014 年（6 年）	1 名	年 1 回説明会開催・面接合格
	2015 年（5 年）	1 名	研修制度開始後の参加メンバー
	2016 年（4 年）	2 名	（22 名）
	2017 年（3 年）	2 名	
	2018 年（2 年）	4 名	
	2019 年（1 年）	1 名	

がん研のボランティア活動になぜ参加しようと思ったのですか？（複数回答可）



➤【社会貢献】が多くなったのは、『ボランティア元年』と言われた 1995 年の阪神淡路大震災から四半世紀を経て、日本でもボランティアの文化が根付いてきたと感じます。
【自宅から近い】ことはコロナ禍において、県を越えての移動も制限されたこと、活動を長く続ける上でもポイントとなります。
【その他】は、研修制度が整っているから、友人の紹介等がありました。

主に活動している活動内容とその理由を教えてください。



【図書】
・曜日に関係なく、毎日実施で参加しやすい
・沢山の方に図書が利用されているので
・中心的な活動だから

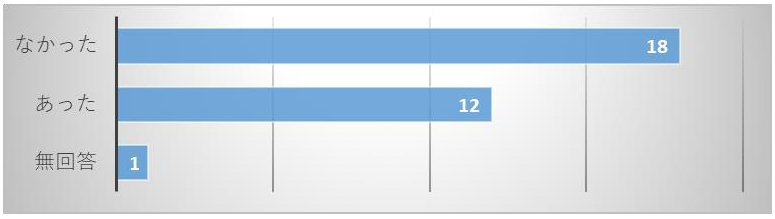
【お茶会】
・難しい活動だが沢山のことを学べるので
・患者さんと直接触れあえる活動だから

【折り紙】＆【コンサート】
・特技が活かせるから　・好きな活動だから

【室内作業】＆【お誕生カードづくり】
・活動日に必要とされているから

➤歴史の古い図書の活動は一番多くの方が関わっています。がん研では“基本”と言える活動で、新人ボランティア研修でも最も多くの時間を割いています。参加理由は活動日が決まっている活動と異なるため、取り組みやすい活動であることが伺えます。お茶会の活動では、参加理由から意欲的に参加していただいていること、折り紙、コンサートの活動では、自ら進んで自発的に楽しく参加している様子が伝わります。
しかし、室内作業、お誕生日カードづくりの活動では、病院からの働きかけによって受動的に活動しているという印象を受けました。ボランティアは、“自ら進んで行う、喜んでする”ことが大切です。ボランティアをする側、される側、受け入れる側それぞれにとってより良い関係を築くためにも、改めてがん研でボランティア活動に参加する理由をよく考えてみていただきたいと思います。

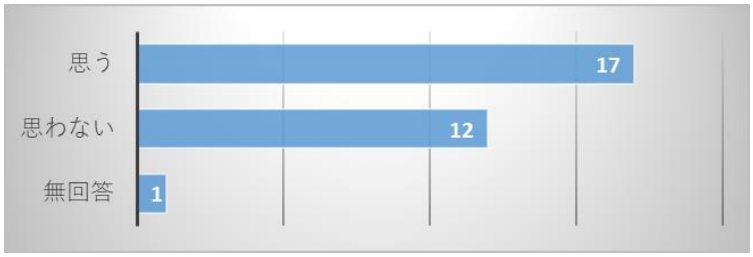
自分が思っていたボランティア活動と、実際の活動に違いはありましたか？



➤以前は【あった】というご意見をいただくこともあり、せっかく参加しても長続きしない方もいましたが、【なかった】という方が約 2/3 となり、思い描いていた活動と実際の活動とのギャップを徐々に埋めることができてきたようです。これはボランティア説明会や個別面談の際に、がん研で求めているボランティア活動について、繰り返し説明してきたことで、ボランティアの方にも病院の方針をご理解いただいた上でご参加いただいている結果ではないか、と感じています。病院ボランティアは病院の特性により活動内容も異なり、内面（精神面）で求められるものが高いこともあります。自分が希望する活動と、病院が期待する活動にズレがあると、お互いのためにならず良い活動には繋がりませんので、この隙間はできるだけ埋めていきたいものです。また、「自ら学んでいく姿勢が求められると感じる」というご意見には、ボランティアとしての意識の高さ、頼もしさを感じました。

【あったという方の理由】
・ボランティアには犠牲が伴うものだと思っていたが、無理なく喜びを持って活動できるようにサポートしていただき、大切な場になっている。
・病院なのでもっと患者さんに近い、直接かかわるような活動なのかと思っていたが、責任等々の説明を受けて納得しました。かえってそういう活動が多くなく、ほっとしています。
・ボランティアとして影ながら患者さんの入院生活の支えになるには、病院のこともボランティアコーディネーターの指示のもと、自ら学んでいく姿勢が求められると感じるようになりました。
・思っていた以上に、自分自身の心が大切だと感じています。
・衛生管理が厳しいと感じたが、病院なので納得しました。

病院スタッフは、ボランティア活動のことを理解してくれていると思いますか？



【思う理由】
- 以前よりは、挨拶をしてくださる職員が増えてきたと思います。
- エメラルドグリーンのエプロン＝ボランティアと認知されてきたと感じる。
- 徐々には理解されてきたと思います。
- コーディネーターには、きめ細やかにお気遣いいただいています。

【思わない理由】
- 病院側のボランティアに対する興味、関心が薄いように感じる。
- 活動時に”邪魔”というあからさまな態度をされる。
- こちらから挨拶をしても、知らんぷりされることがあります。
- 人により、かなり温度差があると思います。
- 予算が少ない。
- 無償でボランティアをすること事態、理解できない人もいて、淋しい。
- 配属される職員が病院でどのような立場のスタッフなのかで病院がどれだけボランティアに重きを置いているかが理解できる。
- 同じ病院内で別のボランティアもあり、担当窓口もわかれていて、その条件も異なり、こちらの活動を軽んじられていると感じる。

➤半数以上の方から「理解があると思う」という意見をいただくことができましたが、これまでインフォメーションや院内誌の「がんけん報」、2011 年からは活動報告書を発行するなど、活動を紹介する機会を設けてきたことで、職員に活動内容を知ってもらい、理解してくれる職員が少しずつ増えてきたのではないかと思います。その半面、「理解があると思わない」という意見の理由と見ると、私自身も職員となる前はボランティアわかばのメンバーの一員として活動しておりましたので、同じような対応をされたときのことを思い出すと心が痛みます。職員となってからは、こういった思いをボランティアの方にしていただきたくないという思いで職員へ働きかけて参りましたが、このような対応には申し訳ない気持ちでいっぱいです。改めて職員にもボランティア活動の意味、活動への想いを伝えていきたいと思います。また、ボランティアの窓口がわかれている点については職員の中でも混乱している部分もあり、帽子クラブや患者会の活動でもボランティアと名乗って活動されたり、国際医療課で通訳ボランティアのランゲージサポーターの活動がスタートしたことから、問い合わせがボランティア室に来ることも多く、ボランティアの方にも大変ご迷惑をおかけしました。担当部署との連携、担当窓口を明確にするよう院内で調整していきます。

ボランティア説明会でも毎回ご説明していますが、病院ではボランティア活動が実施されなくても診療の体制には影響はなくきちんと稼働します。ですが、ボランティア活動を通じて季節の風をお届けすることで患者さんやご家族にとっては治療中でも心地のよい空間が存在し、温かい雰囲気で活動するボランティアの方がいることで病院職員にもゆとりが生まれます。現在、新型コロナウイルスの影響を受けて、活動休止中ではありますが、こんな時だからこそ！！とボランティア活動に理解を示してくれる職員も大勢もいます。“ピンチはチャンス”という言葉もありますが、この状況の中、職員のボランティアに対する理解を深めるのには良い機会となるかもしれないと感じています。

ボランティアの目線は一般の方、患者さんやご家族に近い目線だと思います。病院がボランティアの意見を聞く耳を持っているかどうか…ボランティア支援室では、職員へ対しても引き続き情報発信して啓発活動を進めていきます。これには病院長や看護部長など幹部スタッフの力も必要です。より一層、ボランティア活動に目を向け、心を開いていただけるように、ボランティア支援室としても働きかけていきます。

どのようにしたら、より良いボランティア活動が実施できると思いますか？

・心身ともに良いコンディションを保つこと、ボランティア以外の世界も広げること。
・マンネリ化することなく、卑下することなく、常に前向きに考え行動すること。
・患者さん第一に活動する。活動中に声をかけていただいた方、お話しした方も"来週また会える"方ではないので、そのときに吹く心地よい風のように、ていねいに接することだと思う。
・指示待ちではなく、どうしたら状況が改善されるかを考えながら、活動に参加すること。
・無償＝無責任と考えている人もいますので、我々が責任をしっかり持って活動していくことが大切。
・活動全般を良く考えて、今、自分は何をしたら良いかを考えて最善のものに最大の力を発揮して、ひとつ一つに責任を持って行動していく事が大切だと思います。報告・連絡・相談を忘れずに、ボランティア活動でも一つの仕事、生活と同じように甘えることなく、しっかりと活動したい。
・常に社会や院内の現状を把握しながら、今、求められていることを追及していく姿勢が大事だと思います。そのためには患者や家族の視点で考えていくことですが、ボランティアの中には元患者や遺族もいます。ボランティア同志で日常的に話していくこと、他の曜日の人達との交流の機会（イベントに参加することは有効）を増やすこともいいと思います。
・室内作業などは自分のやりた事が自由にできるともっと楽しい。
・活動の種類がもう少しあっても良いのでは？ボランティアをしているという充実感が薄れてきた。
・活動を増やすためにもメンバーの確保が重要なので、年に数回の説明会を行うなど、現在の募集方法を変えた方が良いのでは？
・活動場所ごとに、病院スタッフと意見交換できる場があればありがたいです。
・患者さんや病院スタッフから何を求められているのか、アンケート等してみてはどうでしょうか？
・年に何回か、ミーティングを設けるとよいと思います。各曜日で 1～2 名参加に絞り、数人で行う方が良いと思う。意見・提案、色々と腹を割って話したい。
・色々な意見があるとは思うが、「してあげる」という気持ちがあると、不満を感じやすくなると思う。評価や感謝の設定基準が高過ぎるとうまくいかない。活動から自分で楽しみを見つけることが大切。
・「コロナショック」の只中、ボランティアの有り方も考えさせられる時期なのかも知れません。自分や自分の家族の安全があってこそ、ボランティア活動も安全性が保たれることとなります。自分自身、身近な所から安全に気を配り、実践し、それをボランティア活動にも生かしていくことでみなが安心できるボランティア活動となり、結果的により良くなっていく様に感じています。

➤ボランティアは無報酬だからと言っても自分がやりたい活動を好き勝手に行うのではなく、病院の方針に従って責任を持って行う、ということは説明会や研修でもがん研ボランティア活動の方針として繰り返しお願いしています。好きなことを自由にやって楽しむのは自分本位の考え方で、ボランティアというよりも"趣味"になるのではないでしょうか？活動を長く続けてくると、慣れや飽きも出てくると思いますが、毎年研修会や交流会などを開催していますので、ぜひ多くのメンバーの方にご参加いただき、意見交換していただきたいです。また、「～してあげる」「～してあげたい」と言ってくださる方もいらっしゃいますが、あげたいという自分中心の視点だけで状況を見ていると、無意識のうちにボランティアだから喜ばれるはず、感謝されてしかるべき、という気持ち、傲りが生まれてしまっていないでしょうか？誰かに何かをしてあげることが必ずしも相手にとって「良いこと」とは限らず、時には負担に感じられることもあるということを忘れずにいたいものです。そして、ボランティアをしたことがない方にとっては、ボランティアというと立派なこと、偉いこと、と高尚なイメージを持たれるのかもしれませんが、ボランティアに参加している私たちにとっては、助けを必要としている人に手を貸すことは当たり前、生活の一部と感じてくださる方も多くなってきたように思います。自分のしていることが、どこかでどなたかのお役に立つことができていたら嬉しい…という気持ちで、"さりげなく" 活動していただける方に今後もご協力をお願いしたいです。

～皆さまの貴重なご意見、本当にありがとうございました～

病院からの感謝の気持ち

コロナの影響で皆さまの生活も大きく変化されている中でも、ボランティア活動にお心を寄せていただき、また物品の提供やご寄付、そして、医療従事者への支援としても沢山の温かいお気持ちを頂戴しました。病院からささやかな感謝の気持ちをお送りしました。

奥村院長補佐兼ボランティア支援室長からのメッセージ

活動休止から半年経った 8 月末、毎年恒例の七タイベントを無事に終えたのを機に、室長の奥村先生からボランティアの皆さんへ在宅ボランティアでのご協力に対しての感謝と、がん研のボランティアをどうか忘れないでください！というメッセージのお手紙を送付させていただきました。

佐野病院長より活動 15 周年記念のメッセージ

活動 15 周年を記念して、これまで活動に携わっていただいたボランティアの OB や OG の方もお招きしての記念の会を企画しておりましたが、多くの方にお集まりいただく行事はコロナの感染リスクが高いこと、また病院への来院制限もかかっているため、開催が叶いませんでした。

このため、病院の近況やボランティア活動状況をまとめた冊子を作成して、病院長から活動へのメッセージも添えて皆さまへお送りしました。クリスマスからコロナ専用病棟が稼働することとなりましたが、ちょうどその日に皆さまにお届けしました。

大野副院長からのメッセージ＆清水副院長兼看護部長からのプレゼント

患者さんへのクリスマスカードと色違いの手作りカードをボランティアの皆さんお一人ずつにプレゼントしました。カードには副院長の大野先生からのメッセージと、清水看護部長から「アマビエ」のマスクケースを添えて、15 周年の冊子と共に、クリスマスに皆さんのご自宅に郵送させていただきました。

ボランティアコーディネーターよりお誕生日プレゼント

ボランティアの皆さんお一人ずつ、お誕生日に合わせてお誕生日カードとおうちでほっこりタイムを過ごしていただけるようにと、お茶のプレゼントをお届けしました。
コロナ禍でお目にかかれなくても、がん研のボランティア活動を通じて、少しでも繋がっている！！という思いが届くように願ってお送りしました。

活動費、募金・寄付のご報告

■ボランティア活動費（年間：1,200,000 円→期中修正：600,000 円）
活動開始 15 周年記念の会の開催を予定していたため、前年度より 20 万円プラスの予算でしたが、活動休止により予算半分の支出に抑えました。がん研も数十億の赤字となり、不要不急の支出は控えるようにと経理・財務の担当からも厳しく言われておりますので、ボランティア室にある在庫の品物をできる限り工夫したり、『ちょこっとボランティア』で活動に必要な物品の寄贈、材料の寄贈を呼びかけたりするなど支出を抑えました。

ボランティア支援室　2020年度活動費報告

（単位：円）

区分	活動別		予算	修正	支出	差額	備考
コンサート	ホスピタルコンサート BGM・ミニコンサート		120,000	0	0	0	ピアノ調律、、写真用紙、POP材料　⇒開催中止
外部団体受け入れ	協力企業等		10,000	10,000	10,800	-800	七夕・クリスマスディスプレイ設置
わかば	図書		250,000	200,000	202,657	-2,657	カバーかけ用フィルムルックス、図書ワゴン車輪交換、欠巻本等（※1）
	ソーイング		30,000	15,000	15,770	-770	生地、糸、マジックテープ等
	折り紙会		10,000	0	0	0	折り紙材料
	外来案内（医事部サポート）		5,000	0	0	0	掃除用具（※1）
	お茶会（緩和ケア病棟サポート）		60,000	0	0	0	コーヒー・紅茶・お茶・コンディメント、お菓子代（※1）
	カードづくり（栄養管理部サポート）		35,000	40,000	37,754	2,246	行事食カード（年6回）、お誕生日カードづくり
	イベント	端午の節句	0	30,000	34,144	-4,144	五月人形修理、鯉のぼり設置用備品
		七夕	30,000	20,000	15,683	4,317	七夕短冊材料、お焚き上げ初穂料
		クリスマスカードづくり	30,000	30,000	27,858	2,142	クリスマスカード材料
		チャリティーSHOP	50,000	5,000	3,672	1,328	SHOP材料
		クリスマスプロジェクト	0	20,000	17,867	2,133	希望のクリスマスツリープロジェクト材料費
		サンタクロース病室訪問	100,000	0	0	0	入院患者さんへのXmasプレゼント、ラッピング材料費
		桃の節句	0	0	0	0	おひなさま修理
ボランティア活動全般	会議費		250,000	30,000	25,596	4,404	病院ボランティア協会研修費、御礼品等
	雑費・消耗品費		220,000	200,000	204,319	-4,319	文房具（インク代・のり・テープ）、洗剤等の消耗品（※1）
合計			¥1,200,000	¥600,000	¥596,120	3,880	経理課へ返金

※1：図書や外来案内、お茶会等で使用している消毒用のエタノール、ガーゼ、エタコット、検査用手袋の他、ボランティア室で使用しているペーパータオルやティッシュ、
手指用消毒アルコールは、購買課からの支給のため、上記支出には含まない。

■古本募金＆ブックオフ古本買取（冊数：910 冊：／金額：41,017 円）
2018 年に募金課が『古本募金』の活動を始めたのを機に、10 年間ボランティア支援室だけで対応していたブックオフへの古本買取を古本募金に統合しましたが、コロナの影響で古本募金の買取の条件が厳しくなったため、夏以降ブックオフでの買取に戻しました。
（※古本募金ではマンガ本など 1 シリーズで 1 冊としてカウントされるため、実際は 1,000 冊以上）

■寄付金（金額：50,000 円）
前年度（2019 年度）からの繰越金と、ボランティアチャリティーSHOP の在庫品販売の売上金に加え、上記の古本募金、ブックオフ古本買取の金額を併せて 50,000 円を募金課に寄付しました。これまでの寄付金総額は **4,763,900 円**となりました。

ボランティア支援室のご紹介

当院では、病院長直結でボランティア支援室が設置されています。病院として必要としている活動とボランティアの方がやりたいと思う活動のニーズが良い形で合致するように調整し、安心、信頼して活動が実施できるように、ボランティア支援室には専任職員（ボランティアコーディネーター）1 名の他、若手職員の教育研修も兼ねて、兼務として事務系総合職の職員が配属されています。2020 年度は新入職員 4 名を迎え、3 年目の職員 1 名が前年度から継続してボランティア活動を支援させていただきました。
また、4 月からはボランティアコーディネーターが専門職として認められ、初めてがん研にも『ボランティアコーディネーター』という職種が誕生しました。これに伴い、ボランティアコーディネーターの柴田も総合職から専門職へと職種変更となりました。

■　スタッフ紹介

室長	院長補佐兼中央手術部長	奥村　栄
主任	ボランティアコーディネーター／社会福祉士	柴田かおり
兼務（3 年目）	人事部人事厚生課	河西　由美
兼務（新入職員）	医事部入院医事課	菅野　涼夏
兼務（新入職員）	総務部総務課	篠田　千織
兼務（新入職員）	社会調達連携部募金課	島貫　若葉
兼務（新入職員）	医事部外来医事課	萩原　涼馬

■　がん研有明病院ボランティアの目指すもの

・入院、通院されている患者さんが院内で快適に過ごすことができるように支援します
・患者さんが安心して治療できる環境づくりの担い手をなります
・患者さん、ご家族と病院や社会との間をつなぐ架け橋となります
・入院生活に季節の風をもたらします
・院内のサービスの向上と充実につながるよう陰ながらサポートします

『～陰ながら・さりげなく・心を込めて～』

■　がん研有明病院ボランティアのシンボルマーク

がん研といえば、カニのマークでお馴染みですが、ボランティアのシンボルマークもこれに因み、カニのハサミがボランティア（Volunteer）の V マークを象り、2 つのカニのハサミは手と手を取り合い、助け合いをイメージしたシンボルマークです。有明での活動 5 周年を記念して 2010 年に誕生しました。

「３年間のボランティア支援室兼務を振り返って」

人事部人事・厚生課
河西由美

ボランティアの皆さま、最後にお目にかかってから１年以上の年月が流れましたが、いかがお過ごしでしょうか。ボランティア支援室の兼務が３年目も継続になると決まった時、「今年も皆さんと活動させていただける！」と喜びを感じたと同時に、新型コロナウイルスの影響で今後の活動はどうなってしまうのか…と不安を覚えました。結局、2020 年度は一度も皆さまとお会いすることができずにとても残念でしたが、今回このような形で３年間を振り返る機会をいただけたこと、大変有り難く思います。

初めて活動内容を知った時は、その活動範囲の広さに驚きました。外来案内や図書の活動、ソーイング、誕生日カードの作成、病棟でのお茶会、折り紙を楽しむ会、定期的な演奏会等といったルーチンの活動に加え、季節に合わせたイベントも開催されていて、まさに年間を通じて大忙しだと思いました。そしてさらに驚いたことは、各活動のクオリティの高さです。特に、イベントのお手伝いをさせていただいた際には、ボランティアの皆さまが積極的に意見を出し合い、安全性や患者さん・ご家族の気持ちを考慮しながらイベントをブラッシュアップされていく様子がとても印象的でした。その様子からは、活動への熱意や患者さんへの思いを感じることができ、自身の職員としての姿勢や自覚を見つめなおす機会となりました。

兼務３年目となった 2020 年度は、新型コロナウイルスの影響で例年の活動が困難となり、ボランティアの皆さまがご不在の中で、兼務職員として活動のお手伝いをさせていただきました。それまではイベントのお手伝いが主でしたが、2020 年度は図書の活動や誕生日カードの作成といったルーチンの活動を初めてお手伝いさせていただきました。どちらの活動も大変地道で、作業量も多く、「少しは手を抜いてしまってもいいのでは…」という思いが頭をよぎってしまった瞬間がありました。しかし、皆さまの熱心な姿が思い浮かび、その思いは一瞬にして消え去りました。ボランティアの皆さまへの敬意が一層深まった出来事でした。

３年間を通じ、病院ボランティアは病院の「心」だと感じました。温かい「心」がある職場で働いていることに誇りを感じながら、この兼務を通じて学んだことを今後も生かして参ります。貴重な機会をいただき、ありがとうございました。

（2019 年の V-SHOP）
※ボランティアさん、同期の石黒さんと会計担当

（2020 年のひな祭り）
※活動休止に伴い、同期と共に人形の片付を担当

（2020 年の事務当直）
※コロナ対応開始直後
VC 柴田と日直担当

これまで最長の３年間の兼務、ありがとうございました！！

病院内の様子

来院制限中で 1 年以上も有明までお越しいただけないボランティアの方が多いため、登録メンバーの皆さんに定期的にお送りしているお知らせメールで、院内の様子を写真と共にお伝えしました。院内の変化に驚かれた方も多かったと思いますが、それだけ病院では慎重に、そして、しっかり感染対策をしていることがご理解いただければと思います。

正面玄関にはテントが張られ、入口と出口も別々に。入口ではお一人ずつ、体調チェック。発熱等症状がある方はスクリーニング外来へ。
医事課と研究所の職員が交代で対応しています。

ホスピタルストリートも様変わりして、100 周年コーナーは入院患者さんが事前に受ける抗原検査会場に。グランドピアノは研究所のロビーに移動し。病棟への立入制限のため、エレベーターホール前では、各部署の職員が交代で対応中です。

外来図書ワゴンは昨年 4 月から撤去。病棟デイルームは緩和ケア病棟以外、昨年末から図書の貸出を中止に。

感染防止のため待合席や休憩場所も一席ずつ間隔をあけているため、外来図書ワゴンが置かれていたスペースにも椅子やテーブルが配置されています。

Volunteer Annual Report（2020）

JAPANESE FOUNDATION
FOR CANCER RESEARCH

がん研有明病院ボランティア支援室